

スマイル タウン

2022
11・12
月

第322号

ひの社会教育センターは、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいがづくりをされる沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

おとな・青少年講座『けん玉道場』



おとなも子どももお互いに学び合う

- シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた！」⑩
- 表紙の講座は…けん玉道場
- 2022年度“まなび”ご案内
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼



SDGsを自分ゴトにしてみた!

2030年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市もSDGs未来都市に指定され、様々な所で17個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGsの目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながらSDGsの取り扱い方について考えていきます。



シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた!」⑩

3 「すべての人に健康と福祉を」

今回、職員の小澤まどかがお話を伺った方は、土崎幸恵さん。土崎さんはADHDと診断を受けた、現在22歳になるお子さんのあつくんを育てる経験の中、発達適育サポートブック『そだちとともに』(2022年6月発行)とおとくみ出版)を出版されました。適育適正プロジェクト代表で『そだちとともに』の編集者である藤本涼子さんも交え、出版の経緯や、今後の展望をお聞きし、SDGsの目標「3 すべての人に健康と福祉を」について考えていきます。

小澤：インタビューのきっかけは土崎さんの著書「そだちとともに」のあとがきに共感したことでした。「障害があつても豊かな人生を送れるように。100人いれば100とおりの人生がある。」というひとりひとりの人生を豊かにするというメッセージが、発達障害のあるお子さんのお父さん・お母さんへのみならず、全ての子育て中のお父さん・お母さんや、社会教育にも通じると感じました。まずは土崎さんの現在の活動などを教えてください。

土崎：現在は東村山市にNPO法人すくすくはあとを設立し、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所すくすくキッズの運営を経て、その中のすくすく相談室で相談支援専門員として地域の障害者福祉に携わっています。相談支援専門員とは、小さなお子さんから大人の方まで、ご本人、あるいは保護者の方のお話をうかがい、障害のある人が福祉サービスを活用できるようにサポートしたり、生活、住居など暮らしにおける悩みの相談支援を行います。障害のある人の生活と家族を支える仕事です。

小澤：『そだちとともに』の本を書くことになったきっかけをお聞かせいただけますか？

土崎：この本を作る前に、子どもの育ちが気になる方のために東村山市のリソースに特化した冊子『TOWN』を作りました。あつくんが診断を受けた頃は発達障害というものがほとんど知られていない上に使える福祉資源が乏しかったので、相談に行った役所の窓口で、いわば「たらい回し」の目に遭うことはしょっちゅうでした。自分の子が発達障害かもしれないと悩んでいる方が、少しでもスムーズに安心して相談に行けるように、相談のコツや福祉資源の利用や活用方法を知ってもらうために作ったものでしたが、それを全国展開できないかという話になったことが経緯です。地域を超えて役立てればという内容にしたものが『そだちとともに』です。1歳半、3歳児健診などの発達に関する気づきがある際に診断が出れば、支援につながるポイントとなります。ただ就学後に先生や特別支援コーディネーターから気づきを与えられるケースでは、自分から情報を集めなければならぬ状況になります。お母さんは『障害』と言われたことにショックを受け、迷い、悩み、行動が遅れてしまうものです。この本には、発達障害のあるお子さんを育てている先輩ママさんたちの経験談もたくさん載せたので、そこを読むだけでも気持ち楽になるのではないかと思います。

小澤：あつくんが過去に描かれた『あつくんはたべられない』『あつくんはねむりたい』の絵本の出版も、土崎さんの本の作成につながった部分はありますか？

土崎：当事者のあつくんが彼の人生の中で苦労したお話は、言葉では伝えにくい部分もあり、

絵にしたらわかりやすくなるのでは?という流れだったかと思います。



↑取材はzoomで行いました。
左上：適育適正プロジェクト代表 藤本さん
右上：ひの社会教育センター職員・小澤
下：『そだちとともに』著者 土崎さん

のやりとりで解決してしまい、結果的には本人は「困っていない」という状況でした。問題解決を保護者がはかっている、本人が問題と感じにくくなってしまいます。

小澤…保護者が介入すれば早いけど、根本的な解決にならないということですね。

土崎…生活全般を支援するグループホームにいるのだから、解決するのは保護者じゃない、と
思っています。と言うのも、問題があったときは、「相談員」と生活の間である「グループホーム」と「本人」とで解決する、福祉サービスを
利用するということがそういうことです。本人
に対する介入を増やす事で、自立につながり
ます。

藤本…発達障害は外見では気付いてもらいにくいので、定型発達の感覚をもっている人間には、なぜそれが問題になるのか、なぜ解決できないのか、問題解決の方法がなぜ家族以外の人の介入なの？ということがわかりにくいところなんです。その上で福祉サービスの利用が理解を得られにくいんです。でも、親はいつも「自分達はいままで生きていられるかわからない」と考えています。本ではどうやって福祉サービスにつなげていったかという事例をたくさん載せています。方法を見つける、つながる、そうしなければいいなと思って作っています。

土崎…介護もそうですが、社会一般的な福祉に頼っていいという気付きを、他のお母さんにも持つてもらえたらいいなと思います。子どもありきの人生になってしまっているお母さんにも、子供の自立を願うのであれば、意識的にも行動も、自分と子どもを全部分けられるようにならないと、「自立」という日は来ないよ。というのを伝えていきたいです。

小澤…ここまで話を聞きながら、では自分には
いったい何ができるのだろうと感じ、言葉に
できないもやもやが残ります。土崎さんが地域や
社会に望むことは何ですか？

土崎…もやもやするのが正解なんです。特性の
程度はそれぞれですが、もやもや感をずっと持
ち合わせていくのです。家族にも福祉にも解決
を求めないでください、解決を急がなくてくだ
さい、一緒に悩んであげてくださいと伝えたい
です。本人たちにとって、選択の幅を広げるの
が生きやすさにつながります。「手伝えること
ある？」「困ってる？」って一言、地域の人がど
れだけやってくれるかで、生きにくさって減る
んですね。そのときその場にいた人が声をかけ
てくれる人が増えればいいな、と思います。

ひの社会教育センターでは、土崎さんとあっくんの
講演会を企画しています。ぜひご参加ください。
『発達かあさん講演会』

あっくんとお母さんの発達子育て奮闘記
詳細はP4にて。



↑中央：土崎さんの息子さん、あっくん
講演で訪れた名古屋で、土崎さんと藤本さんと。

表紙の講座を紹介します！

『けん玉道場』 土曜日(14時〜16時)

教室の様子

最初に全体で一緒に練習して、その後は
自由な雰囲気が続きます。一人で集中して
技に取り組む人もいれば、和気あいあいと
しながら輪になっている子たち。子どもの背
中をそっと見守りつつも、練習に励むお父
さんチーム。みんな片時もけん玉を手放さ
ないということは共通。



けん玉のよいところは？と聞いたところ、
「幅広い世代間交流ができること。ここに
いる小学生の子も自分にとっては、『一緒にけ
ん玉をする友達』です！」とにっこり。

●下河原 伸さん

けん玉歴25年。息子さんと一緒に始め
たけん玉は、当時のけん玉道場を担当して
いた元センター職員の松永さんの美しい「と
め剣」への憧れから。継続のコツを聞いたとこ
ろ、「けん玉は成功体験の連続、どんなに難
しい技もたくさん練習を続けられればできる！
ということをお伝えしています。」



その間も、講師3名の前には昇級・昇段試
験を受けるための列があり、合格すると「○
○さん、○級に合格しました！」と講師が呼
びかけ、練習中の皆が拍手を送ります。「世
代間交流」を自然に体現しているけん玉道
場。インタビューの前に田嶋さんに「スマイルタ
ウンの表紙は毎号講師の写真を…」とご相談
したところ、『みんなの道場なので集合写真に
しましょう！』とのご返答に納得です。

講師3名で力を合わせているけん玉道場
教室や会員さんへの思いを聞きました。

●田嶋 朗さん

ご自身が小学生の頃から常にけん玉が生
活の中心にあるという
田嶋さん。なんとお
仕事も、けん玉やコ
マを販売する会社
にお勤めです。

田嶋さん



●田中 十志也さん

きっかけは息子さんが地元のけん玉大会
で優勝し、この道場の人に誘われたこと。一
緒に入会し、親子で始めました。子どもた
ちへの指導について心がけていることを聞い
たところ、同じ目の高さで話し、必ず全員
に声を掛けるようにしているとのこと。今
やけん玉の新技はジャグリングなどの別世
界から入ってくることもあり、そうした経
験を積むことは、別ジャンルのことから新し
いことが生まれることを知り、そうやって
子どもたちは力をつけていくというお話が
印象的でした。

無限の可能性を信じ、大人も子ども
も一緒に学べるけん玉道場はまさに社
会教育の原点と感じました。

北欧・デンマークから学ぶお話し会

オンライン講座 

スピーカー：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）



2021年5月からスタートし、3か月ごとに開催しているお話し会。
 デンマーク在住の日本人で、現役教員・働くママのピーダーセン海老原さやかさんが、オンラインでお届けする生の声。たくさんの方にご参加いただき、2年目に突入します。
 2年目からは会の名前を「北欧・デンマークから学ぶお話し会」とリニューアル。
 幸福度が高い国と言われるデンマークの日常から、「自立する心の育て方を学ぶ」、参加者同士の対話を取り入れた参加型お話し会です。
 さらにパワーアップしたさやかさんと、ゲスト対談者の方、参加者の皆さんとの対話を重ね進めていきます。
 学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。2023年も一緒に学びましょう！

申し込み受付中!!

日時： 第7回 テーマ「デンマーク×政治」2023年 1月29日(日) 15:00~16:30

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り 申込は2日前まで）

学生さんは参加費500円（窓口扱いのみ） ご参加お待ちしております!! デンマーク王国大使館後援



講師 江浦 知己



お申込みはこちら

おしり先生に
さく

0歳からはじめる
自然なおむつはずし講座

日にち： 2023年1月25日(水)
 時間： 10:00~11:30 定員6組
 参加費： 500円
 会場： ひの社会教育センター
 申込み： お申込みは、お電話(042-582-3136)

または左のQRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。<https://onl.tw/uH1kPwj>
 参加費は当日講座内でお支払いいただけます。



子どものからだを知る講座

講師の先生方に直接足の相談もできます

2023年
2月18日(土)
 13:30~15:00
 参加費 1,000円
 (同伴の子どもは無料)



場所 TreeHALL 日野市多摩平3-1-1 Tomorrow PLAZA 2階
 参加費 1,000円(同伴の子どもは無料) 定員100名

お申込み お電話(042-582-3136)または右のQRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。
 URL入力の場合はこちら→<https://x.gd/euC2V>
 参加費は当日会場の受付にてお支払いいただけます。



講師

村田 健児



2009年から春日部中央総合病院で勤務。獨協医科大学さいたま医療センターでの勤務を経て、現在は埼玉県立大学/埼玉県立大学大学院助教、春日部市立看護専門学校非常勤講師として教育・研究に従事しながら、3つの整形外科クリニックに専門リハビリテーション外来として従事。
 博士号(健康科学)、理学療法士免許、認定理学療法士(運動器)、日本サッカー協会公認C級コーチ等の資格を保有

上野 智世



2009年から8年間埼玉県のリハビリテーション天草病院で勤務。その後、栃木県の整形外科クリニックで勤務。足評価、インソール外来の立ち上げ。2018年フットケアトレーナーの資格取得、オーダーメイドインソールの作成を開始。
 2021年から足のクリニック表参道勤務。成人の足のリハビリ、子供の足の外来リハビリを担当。

協力：株式会社フージャースコーポレーション

発達かあさん講演会

あっくんとお母さんの

発達子育て奮闘記

2023
 1/28(土)
 10:00~11:30

発達障がい当事者のあっくんには、ADHDの特性の他にも、極度の偏食や睡眠障害がありました。赤ちゃんの頃から他の子ども達とはまったく違う子育ての悩みをかかえ、孤軍奮闘しながら「発達かあさん」と呼ばれるまでになった、決して「ただの成功事例」ではないお話と、現在22歳の大学生になったあっくん本人のお話も聞ける講演会です。当日は質疑応答の時間や著書の販売もあります。

会場： Tree HALL
 日野市多摩平 3-1-1
 Tomorrow PLAZA 2階
 参加費： 1,500円/学生1,000円
 ※高校生まで無料
 後援： 日野市教育委員会

お申込みはこちら▼



お申込みは、お電話(042-582-3136) また QRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。
<https://onl.sc/gganay6>
 参加費は当日受付にてお支払いいただけます。



発達かあさん
 土崎幸恵
 つちざき・ゆきえ



日本福祉大学大学院社会福祉学修士卒業
 看護師/保育士/宅地建物取引士などの資格を所持
 2018年7月、東京都東村山市にNPO法人すくすくはあとを設立。
 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所すくすくキッズの運営を経て、現在は相談支援専門員として地域の障害者福祉に携わっている。
 著書に発達適育サポートブック「そだちとともに」(2022年6月発行/とおとうみ出版)、
 「発達かあさん -ソーシャルワークで起業する-」(2022年11月発行/世音社)がある。

あっくん



発達障害当事者として、自身の感覚過敏や「日常でどのように接してもらえると助かるか」等をテーマに17歳の頃から母親とともに講演活動を行う。発達障害を取り上げたNHKの番組で取材を受けたことをきっかけに、自分自身の経験を絵で伝えることに取り組み始める。東京造形大学美術学科(絵画専攻)4年生



賛助会へのご協力ありがとうございます ★順不同・敬称略

- ① 個人会員 1口 1,000円
 荒井文昭 10口 工藤多美子 5口 鳥居由幸 5口
 高橋つや子 10口
- ② 団体会員 1口 5,000円
 大地の芸術祭 2口

スマイルタウン発行：(公財)社会教育協会ひの社会教育センター 発行責任者：館長 入手喬
 〒191-0062 東京都日野市多摩平 3-1-13 電話 042-582-3136 FAX 042-581-0647